

はこだてし 函館市
ごんげんだいばいせき 権現台場遺跡 (B-01-81)

所在地：函館市神山3丁目20ほか

発掘原因：市道建設

発掘面積：909 m²

発掘期間：令和2年6月1日～令和2年8月25日

調査主体：函館市

調査実施：一般財団法人 道南歴史文化振興財団

担当者：函館市教育委員会 吉田 力

調査者：(一財)道南歴史文化振興財団 黒沢 健明(調査担当者)，三上 英則

遺跡の概要

これまでに遺跡は昭和54・55年、及び平成元年に宅地造成に伴い調査が行われ、報告書が刊行されている。また、平成15年にも市道舗装工事に伴い発掘調査が行われている。これまでに計7,400 m²の発掘調査が行われ、本年度の調査は過年度の調査区に隣接した909 m²で行われた。

遺跡は函館市街東部の日吉町段丘と呼ばれる海岸段丘上、亀田川の左岸、台地のほぼ先端部に位置し、標高は50m前後の緩やかな傾斜地となる。東側へ直線距離で約600m、鮫川の対岸には同時期の集落跡である陣川町遺跡が所在するなど、当該段丘縁辺部には比較的多くの遺跡が知られている。調査は過去の調査範囲を挟み30m程離れた2地点(A・B区)で行われた。住宅密集地であり排土場が狭いことから、それぞれ1・2区と調査範囲を分割し、調査後には排土場として作業を進めた。



遺構と遺物

遺構は竪穴建物跡23軒、土坑35基、柱穴状土坑13基、落とし穴8基、焼土13か所、屋外炉1基、埋設土器1基を確認した。縄文時代前期の埋設土器、後期の屋外炉以外の時期を判断できる遺構は全て中期に属する。竪穴建物跡は重複が多くみられ、攪乱の影響や調査区外へと続くものもあり、全形を窺えるものは少ない。炉は全て地床炉で、周溝を伴うものが多い。焼失住居と考えられるものも2軒確認されている。土坑は上面に大礫が置かれたものや、断面形状がフラスコ状のものなどが確認されている。フラスコ状土坑は貯蔵穴と考えられるもののほかに、坑底から全て人為堆積により埋められているもの、極めて小型のものなどが確認され、墓の可能性が考えられるものもみられた。また、直線距離で65m程離れた土坑内出土土器が接合したものもあった。柱穴状土坑では北海道式石冠や石皿などで塞がれているものもみられた。落とし穴は長軸方向の向きが二通りみられる。

遺物は土器が約32,000点、石器が約2,300点出土した。遺構の検出状況のわりに石器の数が少なく、特に剥片石器は少ない印象を受ける。土器は見晴町式が多く、次いでサイベ沢V・VI・VII式や大安在B式が出土している。PD-22では床面から倒立の状態で完形土器(見晴町式)が出土した。土製品はミニチュア土器や円盤状土製品が出土している。また、PD-12内の浅い柱穴状土坑からは土偶が出土している。北斗市村前ノ沢遺跡出土のものと並んで道内最小級のものである。石器は数量こそ少ないが、PD-11床面で互い違いに並べられた石鏃や、土坑内で北海道式石冠と石皿がセットで出土するなど特徴的な出土状況もみられた。



A-1 区調査完了状況（右が北）



A-2 区調査完了状況（右が北）